

―心に響く法然上人の御言葉―

法然上人御真筆

『重要文化財 熊谷直実宛消息』

清涼寺蔵



平敦盛を討ち取った熊谷直実は、その後出家し、法然上人の門に入つて法力坊蓮生を名乗るようになり
ました。この五月二日付消息は、熊谷直実の手紙に対する法然上人御直筆の返書です。

法然上人は、念仏以外の修行で極楽往生を願つても極楽に生まれることはできないとし、後半部分では、
三万遍、五万遍、六万遍と念仏をつとめていれば往生できると説かれています。そして最後に、八十九歳を迎
える直実の母を気づかわれて孝養をすすめ、筆を置かれています。

今回は、後半部分の「六万へんをだに」から、日付、「源空」の御署名、「武蔵国熊谷入道殿御返事」まで
を軸装に仕立てさせていただきました。法然上人の御教えの核心が、御直筆にて、ここに著されています。

法然上人さまの御教えに集う

法然上人御真筆『一枚起請文』浄土宗大本山 金戒光明寺蔵

『国宝 山越阿弥陀図』京都国立博物館蔵

法然上人御真筆『重要文化財 熊谷直実宛消息』清涼寺蔵



仕様・体裁

本紙寸法: 天地 240 mm × 左右 485 mm
軸 寸 法: 天地 1,140 mm × 左右 605 mm
印 刷: グラビア多色刷
用 紙: 特漉鳥の子紙
箱 : うるし二重箱

解説書付: 同朋大学講師 小山 正文

■企画・制作 株式会社方丈堂出版

表具仕様

表 装: 正絹紬織筋割表装
軸 先: 黒檀

このカタログ上の仕様・体裁および色合いは、実物と多少異なる場合があります。ご了承ください。

■発売元

株式会社 メディア設計

本社: 〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町230

お申し込みは……

國寶俱樂部運営事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-7-12 清話會ビル7F
(株)メディア設計東京本部内
TEL. 03-5216-2091 FAX. 03-5216-1120

―法然上人御最期の肉筆―
法然上人御真筆『一枚起請文』

浄土宗大本山 金戒光明寺蔵



仕様・体裁

本紙寸法: 天地 245 mm × 左右 380 mm
軸 寸 法: 天地 1,130 mm × 左右 500 mm
印 刷: 伝統工芸美術印刷
用 紙: 特漉鳥の子紙
箱 : 本格豪華黒塗桐二重箱
箱 書: 『一枚起請文』(本紙より転載)
解 説 書: 故 藤堂恭俊
(増上寺八十六世法主、佛教大学名誉教授・文学博士)

表具仕様

天 地: うすしらちゃたてうすねずみいぬぬき
薄白茶縦薄鼠色抜・
もっこ はなもん
木瓜に華紋
中廻し: うめちゃたておいたけしらちゃ にしよくぬき
梅茶縦老竹白茶二色抜・
ふた え つる ほ たんもんえんしゅう
二重蔓牡丹紋遠州
一文字: こ がれちゃたてきんちやぬき
木枯茶縦金茶抜・
からくさ はなもんきんらんどんす
唐草華紋金欄綴子
軸 先: 黒塗り

■企画・制作 株式会社 メディア設計

法然上人の八百年遠忌を迎えるにあたり、このたび特別に、『一枚起請文』の完全複製の御許可をいただきました。手形印、筆遣い、墨の濃淡に至るまで、原寸大で忠実に再現いたしました。法然上人の御心が鮮明に伝わってきます。

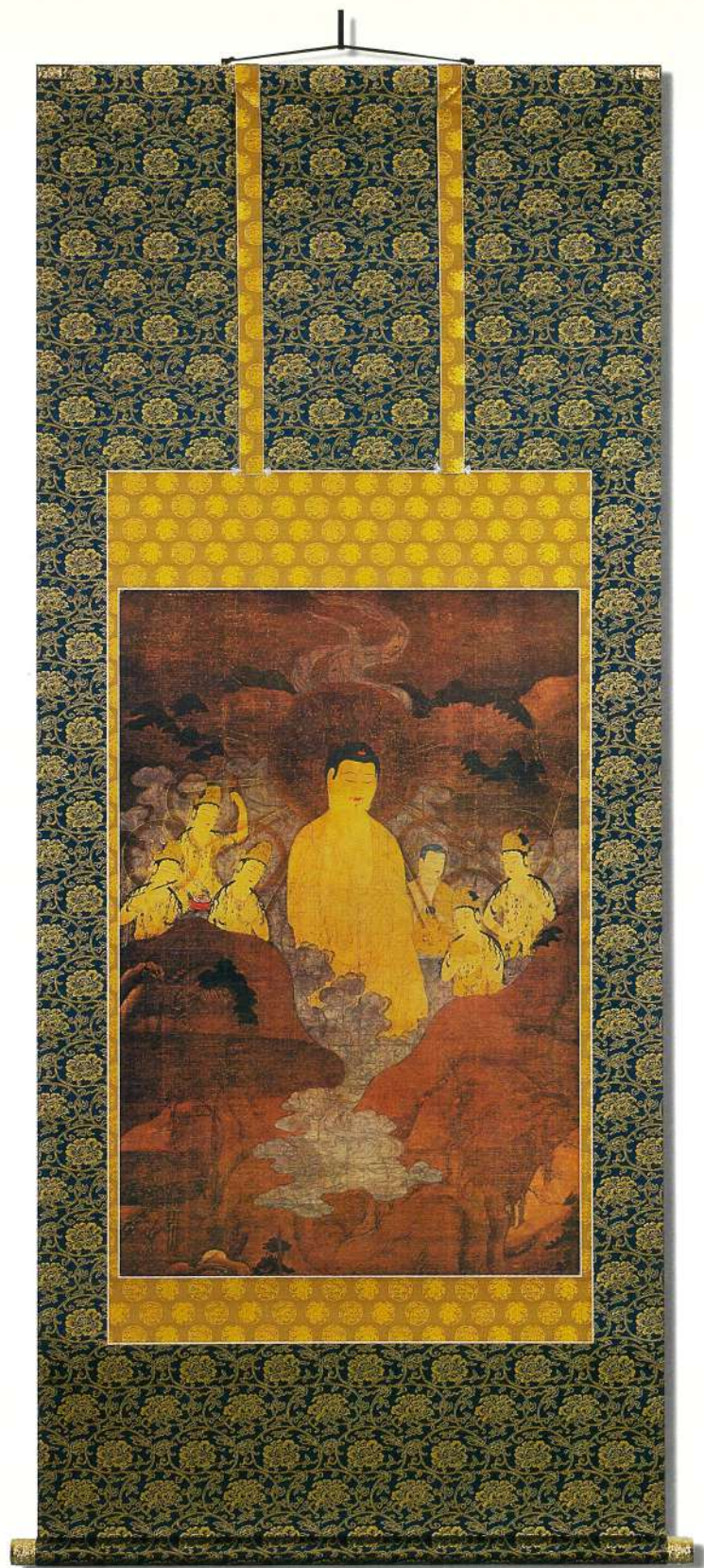
『一枚起請文』は、宗侶の皆様また壇信徒の方々が朝夕拝読される、法然上人の大切な御遺訓です。法然上人は、ご入滅の二日前、没後に門人たちの間で異議が生じることを避けるため、浄土宗の御教えの真髓をわずか三百二十余文字で著されました。極楽往生を願う人は、必ず浄土に迎えとられることを信じてただひたすら「南無阿弥陀仏」の念仏の二行に励むように、と渾身の思いで法然上人は説かれています。



解説書

―往生を見届けた国宝―
『国宝 山越阿弥陀図』

京都国立博物館蔵



仕様・体裁

本紙寸法: 天地 747 mm × 左右 500 mm
軸 寸 法: 天地 1,630 mm × 左右 680 mm
印 刷: 原色版多色刷
用 紙: 特漉雁皮紙
箱 : 本格豪華高級桐箱入
制作番号入

表具仕様

総 縁: なん どねずみち ほ たんきんらん
納戸鼠地たたき牡丹金欄
中廻し: きんちや ち がんりゅうもんきんらん
金茶地丸龍紋金欄
軸 先: 蓮華紋入金軸

■企画・制作 株式会社 同朋舎

後光をいただき、金色に輝く阿弥陀如来と六尊の菩薩が、山上に半身を現され、さらに山を越えて往生に瀕した衆生をお迎えしようとされています。向かって左側の勢至菩薩は合掌し、二尊の菩薩が音楽を奏でています。右側の観音菩薩は魂をすくいとり蓮台を持ち、地獄など六道に堕ちる者を救済する地藏菩薩と、魂を導く幡(旗)を持つ菩薩が続きます。人々は、このような「山越阿弥陀図」に五色の糸を通し、北枕にした臨終者の西方に置いて、極楽浄土に導かれんことを願いました。この『国宝 山越阿弥陀図』の阿弥陀仏の胸と右手にも小さな穴があつたとみられ、浄土を憧憬する人々の篤い思いがひしひしと伝わってきます。

